品川区保健所　令和8年度食品衛生実務講習会

現場で活かすHACCPと防虫防鼠



公益社団法人東京都ペストコントロール協会
副会長（技術・感染症担当理事）　谷川　力

講習内容

- HACCPに沿った衛生管理について
- 衛生管理計画の作成方法や記録方法
    - ねずみ・昆虫対策
    - ねずみ・昆虫対策に関連する廃棄物の取り扱い
- 具体的なねずみ・昆虫対策について

対策チームをつくる：責任者の重要性

・HACCPにおける主体は、食品製造者・食品流通拠点での食品衛生管理者で構成され、責任者の役割は重要である。

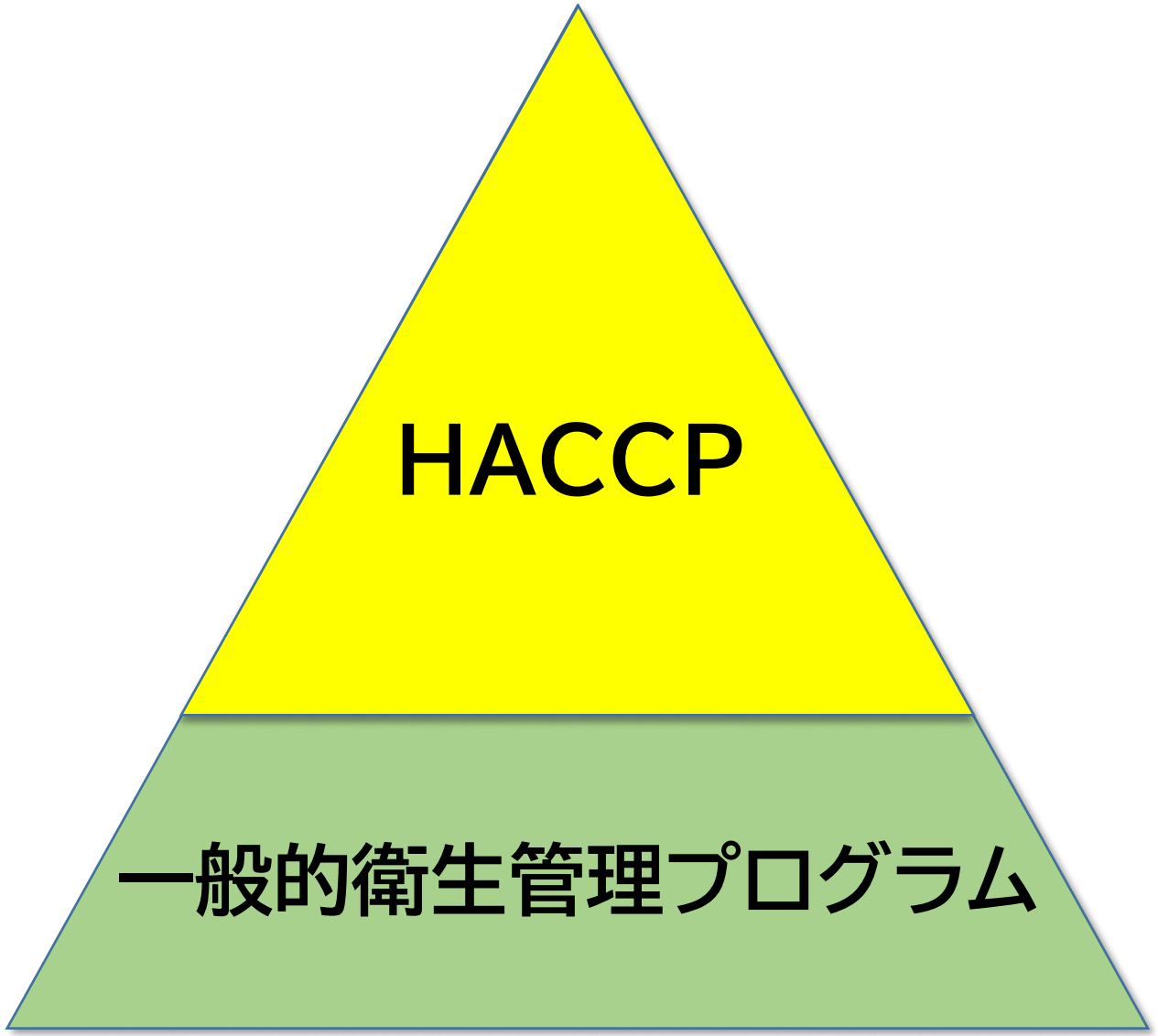
➡対策チームは作るべきで、その中のPCOの役割は対策チームをサポートすることになる。

＊PCOは必要に応じて防除を行う。

・チームでなく、ひとりでも責任者の役割は同じ
・衛生意識のひとつとして防虫防鼠の責任をもつ

PCO:ペストコントロール（有害生物防除）事業者

HACCPにおける一般的衛生管理の位置づけ



HACCP構築の
前提条件

谷川（2025）食と健康

一般的な衛生管理に関する基準

一般的な衛生管理に関する基準

1．食品衛生責任者等の選任
食品衛生責任者の指定、食品衛生責任者の責務等に関すること

2．施設の衛生管理
施設の清掃、消毒、清潔保持等に関すること

3．設備等の衛生管理
機械器具の洗浄･消毒･整備･清潔保持等に関すること

4．使用水等の管理
水道水又は飲用に適する水の使用、飲用に適する水を使用する場合の年１回以上の水質検査、貯水槽の清掃、殺菌装置･浄水装置の整備等に関すること

5．ねずみ及び昆虫対策
年２回以上のねずみ･昆虫の駆除作業、又は、定期的な生息調査等に基づく防除措置に関すること

6．廃棄物及び排水の取扱い
廃棄物の保管･廃棄、廃棄物･排水の処理等に関すること

7．食品又は添加物を取り扱う者の衛生管理
従事者の健康状態の把握、従事者が下痢･腹痛等の症状を示した場合の判断（病院の受診、食品を取り扱う作業の中止）、従事者の服装･手洗い等に関すること

8．検食の実施
弁当、仕出し屋等の大量調理施設における検食の実施に関すること

9．情報の提供
製品に関する消費者への情報提供、健康被害又は健康被害につながるおそれが否定できない情報の保健所等への提供等に関すること

10．回収・廃棄
製品回収の必要が生じた際の責任体制、消費者への注意喚起、回収の実施方法、保健所等への報告、回収製品の取扱い等に関すること

11．運搬
車両･コンテナ等の清掃･消毒、運搬中の温度･湿度･時間の管理等に関すること

12．販売
適切な仕入れ量、販売中の製品の温度管理に関すること

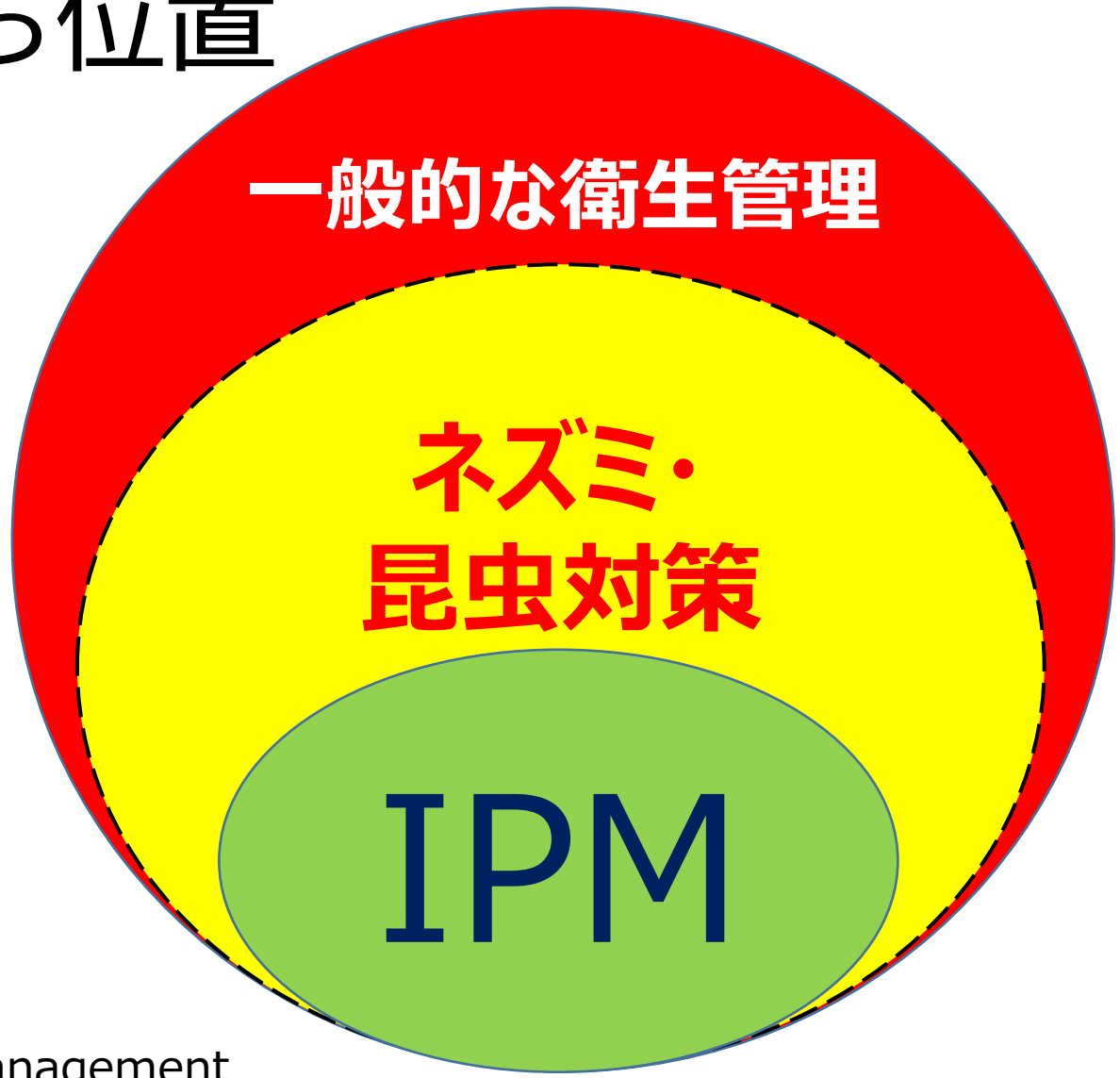
13．教育訓練
従事者の教育訓練、教育訓練の効果の検証等に関すること

14．その他
仕入元･販売先等の記録の作成･保存、製品の自主検査の記録の保存に関すること

「食品等事業者が実施すべき管理運営基準に関する指針（ガイドライン）」の内容を踏襲

出典：厚生労働省「HACCP（ハサップ）に沿った衛生管理の制度化」

IPMの立ち位置



IPM：Integrated Pest Management

谷川（2025）食と健康

IPMの理念

・人の健康のリスクと環境への負荷を最小限にとどめる方法で、ネズミ・害虫等を管理する。

・組織作りと統括者を決め、各担当者と役割分担を決定する。

・生息調査の実施

・目標設定をする（許容、警戒、措置）

・対策

・評価の実施をすること

HACCP構築の前提条件

➡一般的な衛生管理

＞ねずみ・昆虫対策

＞IPM

衛生管理計画の作成方法と記録方法

- 同じ調査方法を繰り返すこと
- 調査間隔を統一すること
- 調査を重視すること
- 実施管理前と後の評価をすること
- 数値で示せる資料を作成すること
- 改善すべき点を考え、5W1Hで記録すること

調査の記入項目

調査項目	目　的
生息調査	何が生息しているのか 侵入の可能性があるのか
被害調査	異物のリスクは高いのか 食中毒の原因になりそうか 食害が発生しそうか
環境調査	環境はその生物にとって住みやすいか

谷川（2025）食と健康

調査時のチェックポイント（確認例）

調査方法	チェックポイント	
生息調査	何の虫（ネズミ）が生息していますか？生息しそうですか？ その種類は多くみられますか？	
被害調査	加害種被害の対策はしていますか？	
環境調査	バリア性	扉の開閉、隙間や貫通部等の侵入の可能性はありますか？
	誘引源	光・臭い・温度などは屋外にもれていますか？
	発生源	屋内・外での食品残さや屋外での雑草などの管理は十分ですか？
	サニテーション	整理・整とん・清掃などしていますか？

調査時のチェックポイント（記入用例）

調査方法	チェックポイント	
生息調査		
被害調査		
環境調査	バリア性	
	誘引源	
	発生源	
	サニテーション	

衛生管理計画の作成方法や記録方法

- 年・月・週・日計画をつくる。
- 共通項目：記録の保存、実施、結果、改善

＜年次計画案＞

目標を明確にして着地点を責任者が示すこと

＜月次計画案＞

その月内に実施すべき項目の結果を終結させること

＜週計画案＞

休み等で区切り、週内で改善すべきことを実施すること

➡**表を作る**

＜日計画案＞

その日に行うべきこと、気になったことをメモ程度で残す

まず情報を集め、解析する

・調査は重要

・モニタリングをしよう！

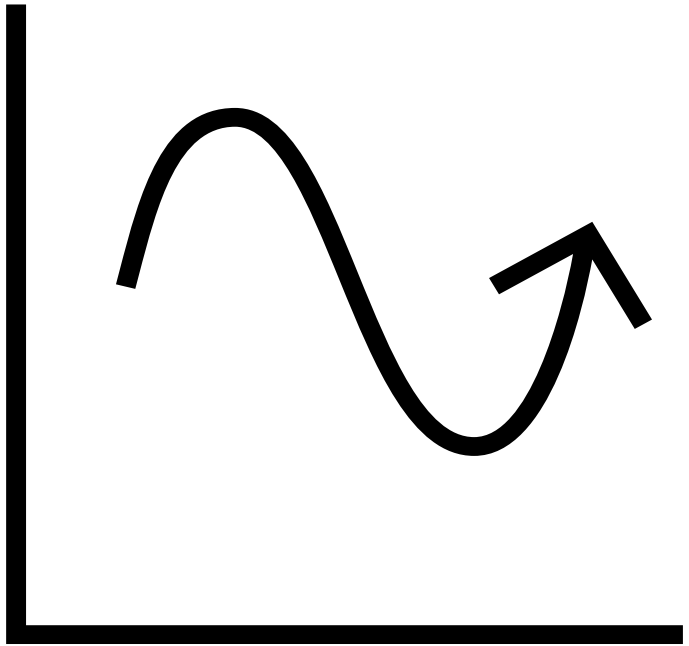


図か表を作り、捕獲数や被害を表現できるか？

- 捕獲や被害の多い時期を知り、その前に対策する
- 捕獲や被害の多い場所を知り、その場所の対策をする
- 捕獲数や被害件数の増減を知ること

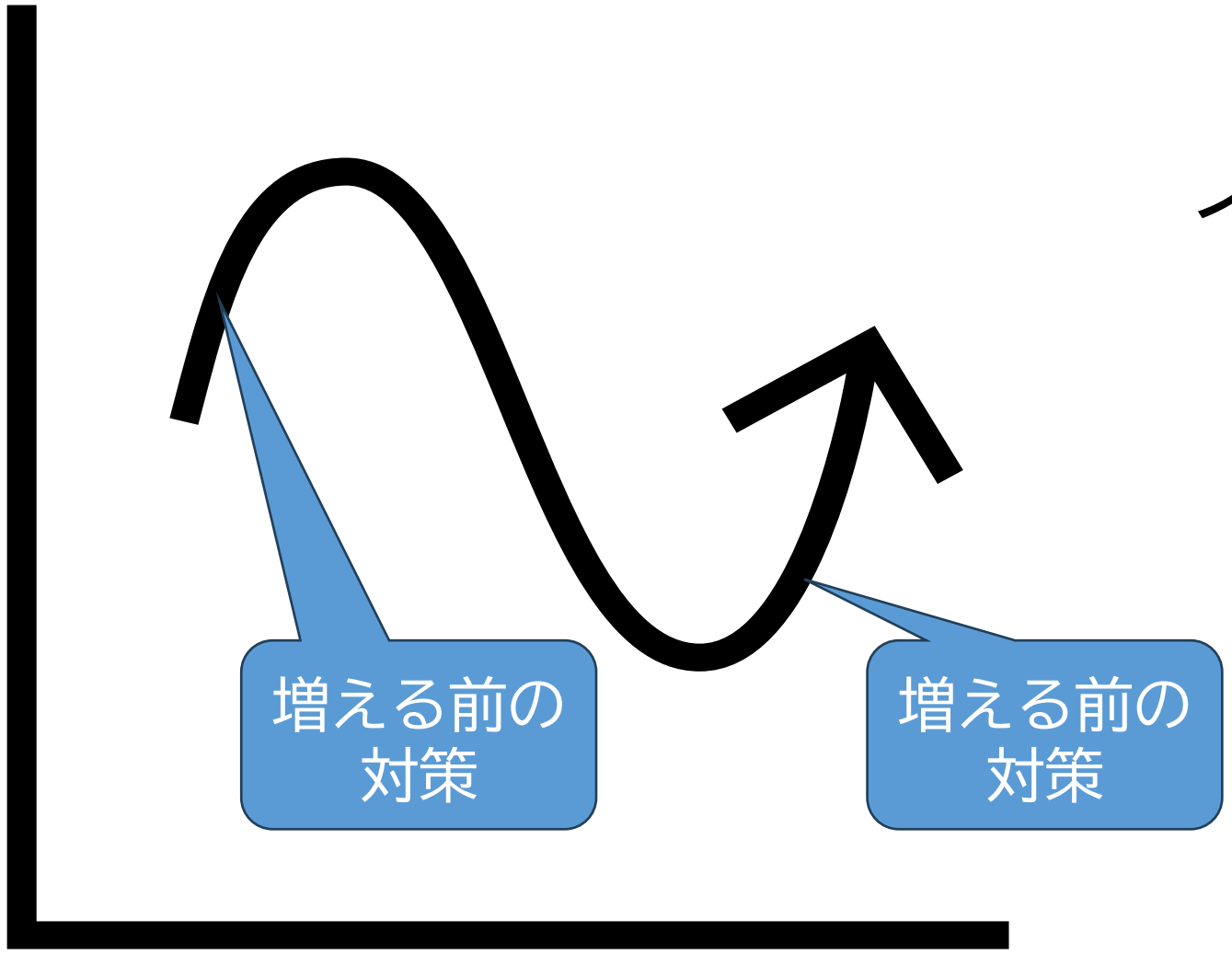
  減る方向に向かってなければ

  その対策はダメ



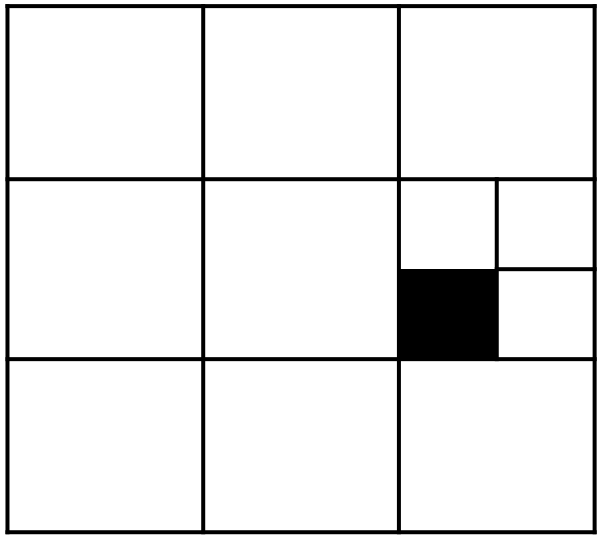
捕獲や被害の多い時期を知り、その前に対策する

イメージ

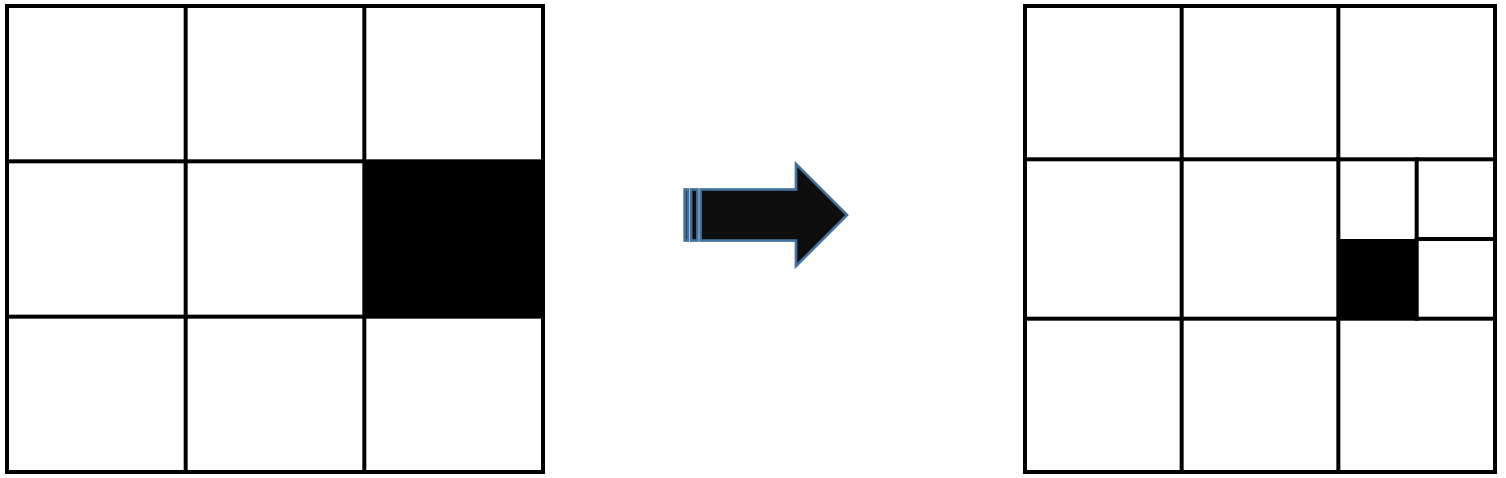


図か表を作り、捕獲数や被害を表現できるか？

- 捕獲や被害の多い時期を知り、その前に対策する
- 捕獲や被害の多い場所を知り、その場所の対策をする
- 捕獲数や被害件数の増減を知ること
  減る方向に向かってなければ
  その対策はダメ



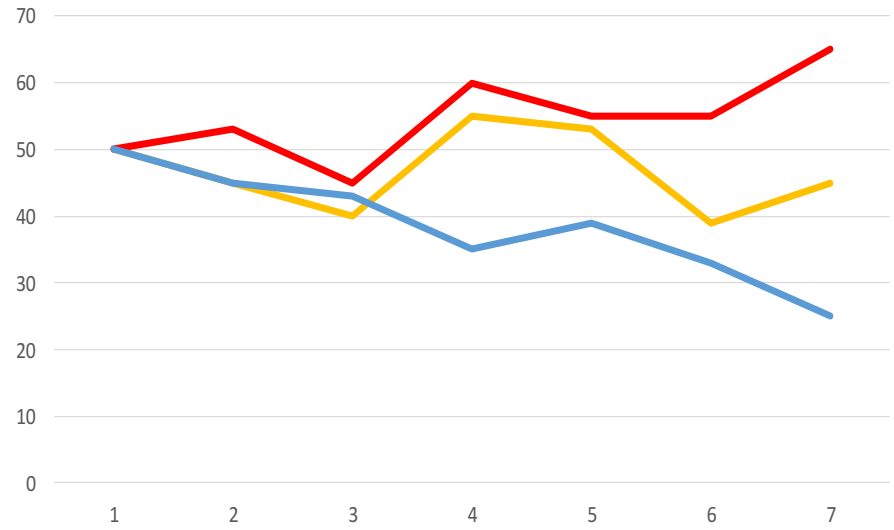
店舗内のグリッドによる絞り込み事例
（黒枠が多い場所）



1．全体に均一にトラップを配置する（モニタリング）
2．捕獲の多い場所の把握（特に仔ネズミ捕獲）
3．多い場所内で均一にトラップを配置する（モニタリング）
4．絞り込みで集中防除（営巣場所・侵入穴の確認）

図か表を作り、捕獲数や被害を表現できるか？

- 捕獲や被害の多い時期を知り、その前に対策する
- 捕獲や被害の多い場所を知り、その場所の対策をする
- 捕獲数や被害件数の増減を知ること
  減る方向に向かってなければ
  その対策はダメ



捕獲数の月ごとのグラフ作成してみる（例）

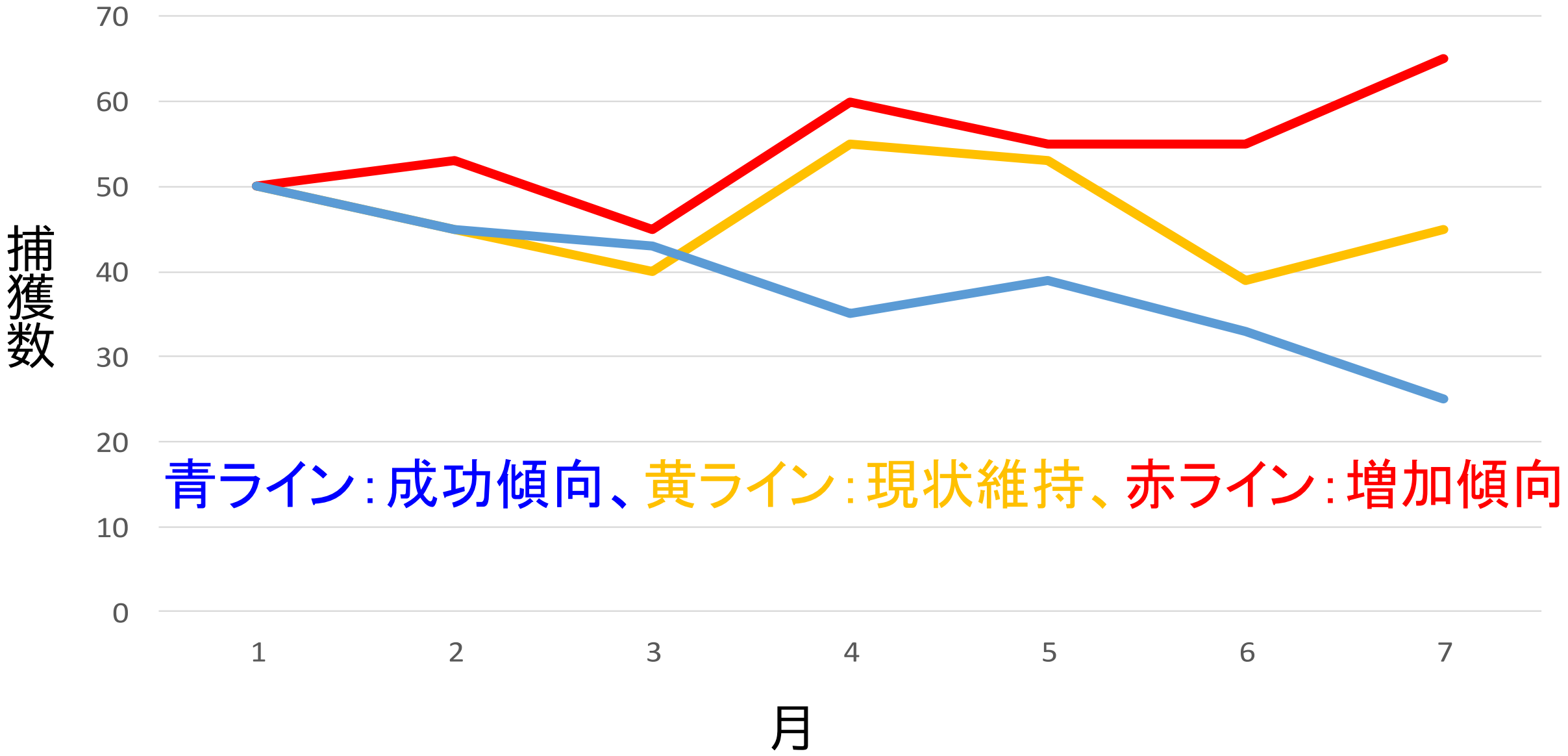
- 毎回同じ捕獲数の繰り返し、**増加傾向なら防除はうまくいっていない**。
- 例えばネズミでは、**仔ネズミの比率**をみると繁殖の程度がわかる。

➡捕獲数の減少、仔ネズミの減少がみられるなら防除は良い方向に進んでいる。

⇒毎月の**捕獲データの蓄積**で、数か月以上の結果からで減少傾向を把握し、減少していないなら是正処置方法を考える。

被害件数でも同じ

ネズミの捕獲数の変動のイメージ（月）



トラップでの捕獲個体からの推測

- 記録の保存→捕獲数やネズミ・ゴキブリの大きさ
  （捕獲数／日、幼獣か成獣か、幼虫か成虫か）
- 季節的消長（どの時期で多いのか？）
- 活動時間（何時ごろ多いのか？）
- 生息（侵入）場所の推定
- 危害予測（食害など）
- 薬剤使用場所の絞り込み

**トラップでの
モニタリングは重要**

モニタリングの重要性

①現状確認、原因究明のデータがつくれる

昆虫等の異常発生などの異常事態を検出する。
また、その原因を究明するためのデータを得られる。

②改善活動の効果確認

改善提案を実施した際など、その効果を評価できる。

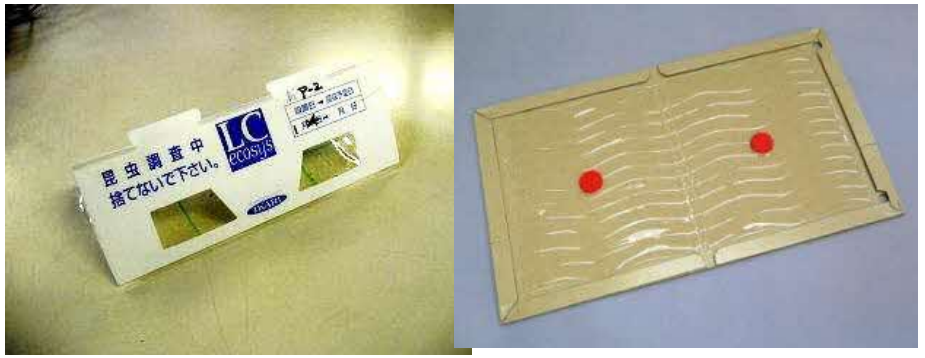
★居ないときには居ないと言えるデータの構築

IPM（総合的有害生物管理）では重要な要素の一つ

トラップ（モニタリングに使用するトラップ類）

・粘着トラップ

粘着性のある床置きトラップで歩行性の
ゴキブリ・ネズミを捕獲するのにもちいる



イカリ消毒

・ライトトラップ

飛翔性の昆虫を誘引・捕獲する



・赤外線カメラトラップ

ネズミの移動経路や生息密度を調べる



鵬図商事

ねずみ・昆虫対策の進め方



ネズミ・昆虫対策の進め方

→手順を踏むことがたいせつ

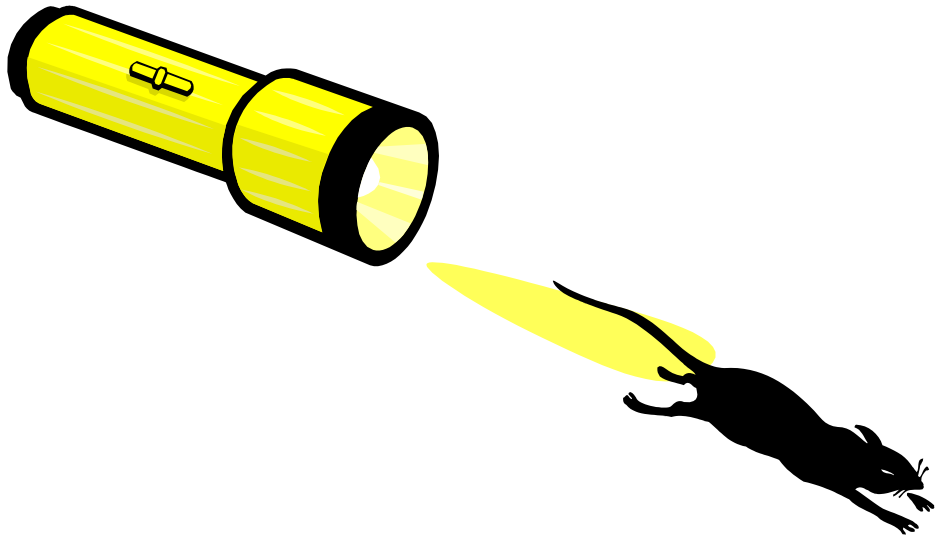
事前調査 → 計画 → 防除 →

効果判定 → 事後処理 → 定期点検

谷川（2025）食と健康

事前調査

- 目視による調査
- トラップによる調査
- 聞き取り調査
- 生息環境の調査
  １）管理状況の調査
  ２）施設・設備の調査
- 無毒餌（ネズミ）による調査
- 被害調査
- 証跡調査（糞、足跡、脱皮殻等）



計　画

- 防除計画と手順は重要.
- 種類別駆除方法が異なることもある.
- 施工には粘着トラップ，薬剤(殺鼠剤･殺虫剤)，防そ防虫工事，環境改善などの組み合わせがどこまでできるか.
- 報告や記録の方法の統一.
- IPMによる管理は目標、是正処置など有効.
- 効果判定方法や日程の調整

防除作業

- 以下のような方法がある

１．環境的対策（施設改善・侵入防止対策）
２．化学的対策（薬剤による方法）
３．物理的対策（機械や器具を用いる方法）

１＋１＋１＝３ではなく、それ以上の相乗効果がある

防除方法

環境的対策	施設改善	食物の管理、発生源除去、食物残さなど清掃
		巣・生息場所の管理など整理・整とん
	侵入防止対策	遮断構造（侵入阻止、出入口の隙間、壁の隙間など）
		光コントロール（夜間照明の漏れ、街灯などの位置）
		臭いコントロール（食物、腐敗による臭いの除去）
化学的対策	殺虫剤＊	ピレスロイド剤、有機リン剤、ゴキブリ食毒剤など
	IGR剤	キチン質生成阻害剤、幼若ホルモン様物質
	殺鼠剤	抗凝血性殺そ剤、急性殺そ剤
	忌避剤	吸血・咬害阻止剤、臭気忌避剤
物理的対策	トラップ	ゴキブリ用、ネズミ用、誘虫灯付飛翔昆虫用捕獲器
	超音波忌避器	ネズミ用忌避器

＊他にネオニコチノイド系、フェニルピラゾール系、メタジアミド系等がある　谷川（2025）食と健康

効果判定

・事前調査と同じ方法
・比較して検討する

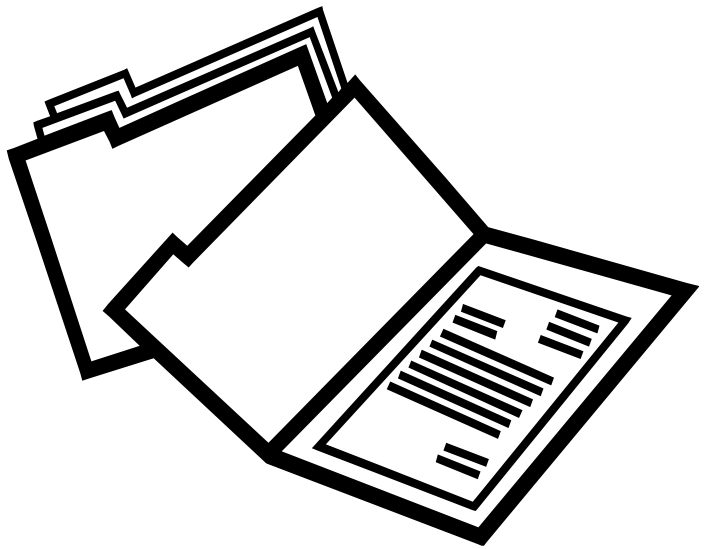
事後処理

- 死鼠虫の回収
- 清掃（殺鼠剤の回収）
- 毒餌皿の回収
- 粘着トラップの回収
- イエダニ対策

定期点検

- 新たな侵入箇所や証跡、被害の有無の確認
- 建築物の周囲、植栽、ゴミ置き場、倉庫などの点検
- 店舗内の清掃、食物の管理、構造上の問題のチェック

報告書の作成（まとめ）



- 防除作業回数
- 殺鼠剤・殺虫剤や捕獲器の使用量
- 捕獲数
- 防除効果
- 改善事項の提案

対策の基礎IPMの話

総合的有害生物管理

（IPM：Integrated Pest Management）

有害生物防除とIPM

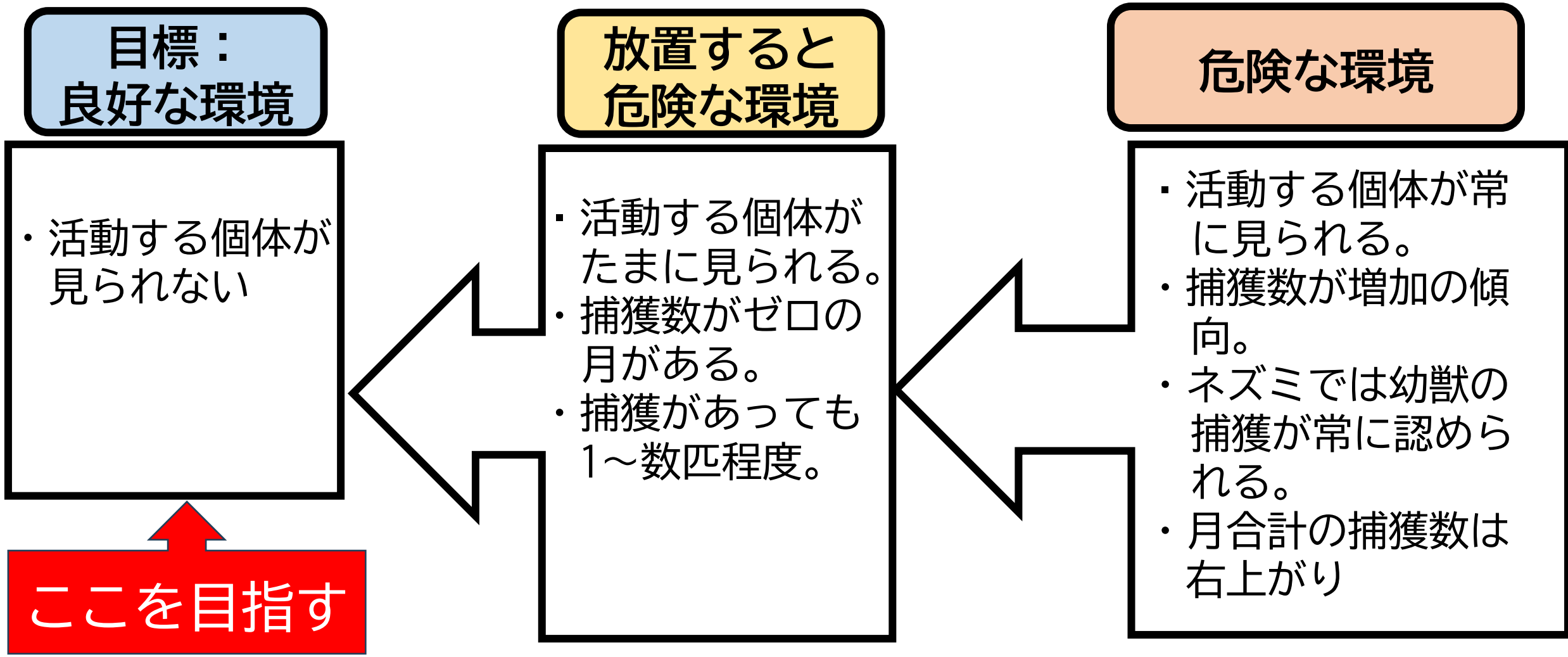
- 殺そ剤・殺虫剤の取り扱い（法令遵守）
- 調査を重視し、対策を立案、作業を実施
- 調査には生息調査と環境調査が重要
- 目標水準の設定（許容・警戒・措置）
- 環境整備など総合的手段での対応
- 報告提案と相互の理解と協力

IPMでの管理方法

許容水準	良好な環境、被害のないレベル	調査のみ、日常の点検
警戒水準	放置しておくと増加する可能性大	環境的対策や捕獲で対応
措置水準	すぐに防除しなければならない	薬剤の使用も考える

谷川（2025）食と健康

管理目標例



＊今、店舗内がどの環境かを把握し、目標とする良好な環境を目指す。

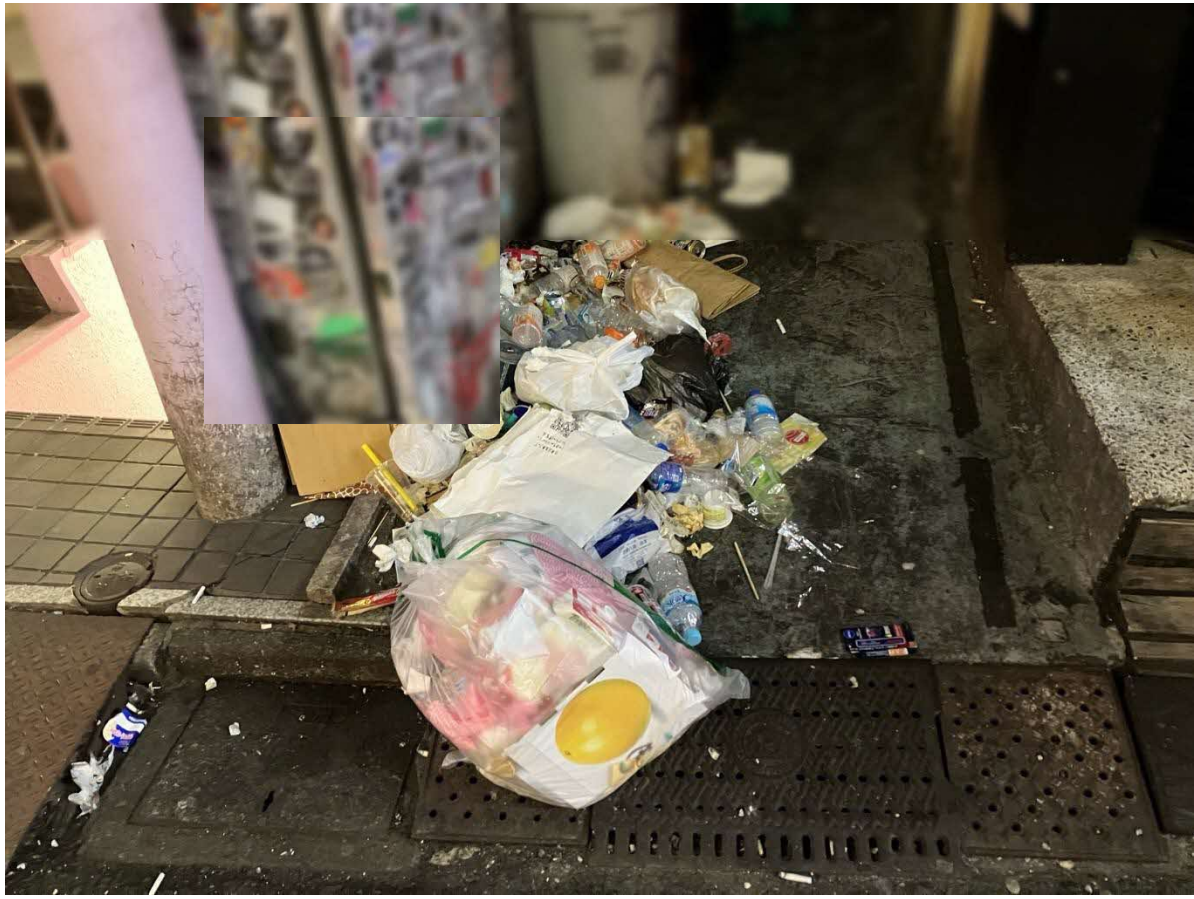
都内のある町のごみ管理
（2025.1.29.3時）





都内のある町のごみ管理
（2025.1.29.4時）





ゴミがゴミを呼ぶ！！

ゴミ集積場の廃止




警告
不法投棄禁止！
「廃棄物処理及び清掃に関する法律」違反により、5年以下の懲役もしくは1千万円以下の罰金に処されます。
渋谷区・渋谷区内警察署
この集積所は
11/15 を以って
廃止
になりました
警告
違反により、5年以下の懲役もしくは1千万円以下の罰金に処されます。
※不法投棄を見かけたら通報してください。
渋谷区・渋谷区内警察署
この集積所は
11/15 を以って
廃止
になりました
この場所に
ごみ
を捨てないで
ください

生ゴミ（事業ゴミ）等の処理

- 事業ゴミとしての管理
- 蓋のあるバケツに入れ、ゴミが溢れないように蓋をしっかりとする。容量が多いなら倍のバケツを用意すること。
- 回収はできるだけ早くすること。理想は閉店直後だが・・・。
- 近くに植栽や私有地の土面が無いところを選ぶこと。
- 捕獲トラップ・使用薬剤の廃棄はPCOに任せること。

具体的なねずみ・昆虫対策について

ー各種有害生物の生態と対策ー

主に共通する有害生物の生態とは

- ヒトに依存して生活している（生ごみ等食べ物、快適な温度等生活環境、侵入しやすい等）
- ヒトに嫌われている（衛生的、視覚的、臭い等）
- 重大な事故を引き起こすことがある（**異物混入**、食中毒、食害等）
- たった1匹でも問題となる種、大発生して問題となる種、知らない間に侵入している種などがある
- 四季を問わず生息している
- **特に衛生的に問題の多いネズミやゴキブリ対策は重要**

近年の事故例をみて重要度が高いのは異物混入

どのような生物が異物になりやすいか？

- 原料・製品・生ゴミを食害する
- 店舗内内に生息している
- 発生源が近くにある（生ゴミ・河川等）
- 近隣の店舗に生息している　　など

防除作業

- 以下のような方法がある

１．環境的対策（施設改善・侵入防止対策）
２．化学的対策（薬剤による方法）
３．物理的対策（機械や器具を用いる方法）

１＋１＋１＝３ではなく、それ以上の相乗効果がある

防除の方法

以下のような方法がある

１．環境的対策（施設改善・侵入防止対策）

➡環境的防除方法

２．化学的対策（薬剤による方法）

➡化学的防除方法

３．物理的対策（機械や器具を用いる方法）

➡物理的防除方法

（他に４．生物的対策：生物的防除方法）

防除の組み合わせ

- 環境的防除方法（整備と改善）
  - 施設改善
  - 3S(整理･整頓･清掃)または5S(3 S+清潔･習慣づけ)
- 化学的防除方法（薬剤）
  - 殺虫剤・殺鼠剤
  - 忌避剤
- 物理的防除方法（捕獲）
  - トラップを用いた捕獲など

環境的防除方法

- 環境的対策（施設改善）
  - 食物の管理
  - 巣・生息場所の除去
- 侵入止対策
  - 遮断構造
  - 光コントロール
  - 臭いコントロール

生物が生息・繁殖・侵入が出来ないような環境を保つことにより、個体数を管理する。





環境的防除方法

- 環境的対策（施設改善）
  - 食物の管理
  - 巣・生息場所の除去
- 侵入止対策
  - 遮断構造
  - 光コントロール
  - 臭いコントロール

清掃やバケツに蓋をするだけでも
十分に効果がある



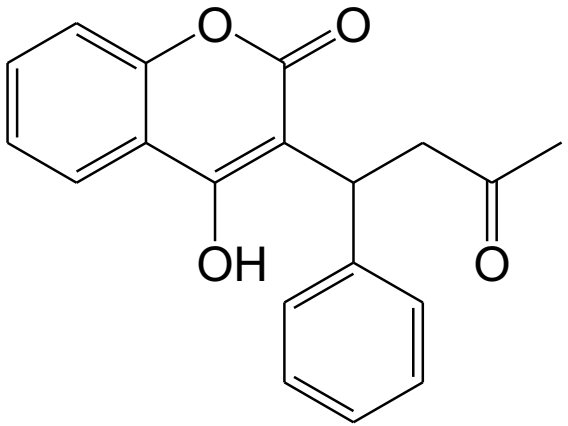


化学的防除方法



殺虫剤
昆虫成長制御剤
殺鼠剤
忌避剤







物理的防除方法

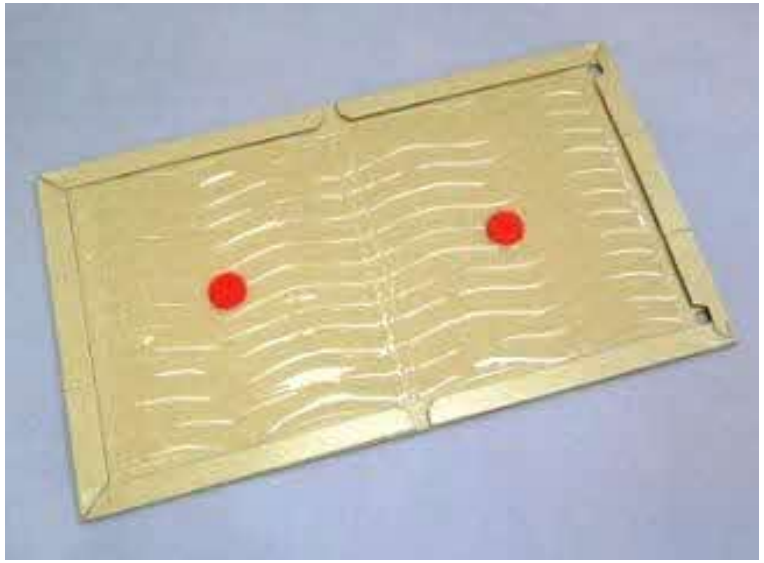
・トラップなどによる捕獲

・光・音・電流などによる忌避

・光・音などで別の場所へ誘引



鵬図商事

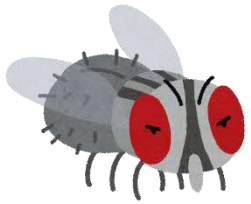


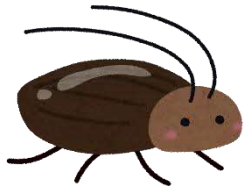
イカリ消毒



侵入防止対策の考え方

バリアを重ねて危害発生の確率を減らす







敷地内

近づけない

店舗内

中に入れない

重要管理区域

捕獲する

具体的な種類－１

ネズミ

イエネズミの主な生態と特徴

項　目	内　　容
雑食性	肉でも野菜でも何でも食べる
気候	寒いのは弱い
夜行性	人の活動により変化するが基本的には夜行性
隅行性	壁沿いを歩くことが多い
警戒心	特にクマネズミは警戒心が強い
活動範囲	巣と餌を中心とした小規模の範囲で活動する
旺盛な繁殖力	ネズミ算と言われる

クマネズミ



学名　*Rattus rattus Linnaeus*

巣　建物の壁裏や物陰にビニルや紙くずなどを集めて営巣する。屋外では樹上や倒木の間などに枯草、枯葉を集めて営巣する。

サイズ　成獣 100 - 200 g、頭胴長 146 - 197 mm、尾率 100%以上

繁殖　妊娠期間21日、平均産子数5－7子、
12ー16週で性成熟

寿命　約2年(飼育下では3年)

分布　温暖な地域に繁栄。都市部ではビルや家屋に侵入。南西諸島、小笠原諸島などでは一年を通して屋外にも生息する。
東南アジアが原産地であり、そこから世界中に広がった。

クマネズミの特徴

- 天井をよく利用する
- 配管や配線を利用して容易に上り下りする（上下運動は得意）
- 殺鼠剤を食べないことがある（食べても死なない）
- ネズミ捕りカゴではなかなか捕まらない
- 粘着トラップでも避けてしまうことがある
- 侵入できる隙間は13㎜（幼獣）：人の大人の指が入る隙間

立体的活動を好み、
最も難防除なネズミ

ドブネズミ



学名　*Rattus norvegicus Berkenhout*

巣　主に土中に坑道を掘って枯草や
布切れなどを引き込み営巣する。
建物内に営巣することもある。

サイズ　成獣 140 - 500 g、頭胴長 186 - 260 mm、尾率 100%以下

繁殖　妊娠期間21日、平均産子数8－9子、8－12週で性成熟

寿命　2年(飼育下では3年)

分布　寒冷地から熱帯にまで広く分布。乾燥地域には生息しにくい。
中央アジアが原産地でそこから世界中に広がった。

ドブネズミの特徴

- 排水から出没する（移動経路として利用）
- あまり高いところを移動しない（水平移動が多い）
- 子猫くらいの大きさになる
- 土に穴を掘って生活している
- 水洗トイレからも出てくることもある（水に強い）
- ネズミ捕りカゴで捕まると「キーキー」騒ぐ

平面的活動と水辺を好む

ハツカネズミ



学名　*Mus musculus Linnaeus*

巣　備品、調度品、積荷の隙間、積みわらの下、屋外や床下では巣穴を掘ることがある。

サイズ　成獣 10 - 20 g、頭胴長 58 - 92 mm、尾率 60－100%以下

繁殖　妊娠期間21日、平均産子数4－7子、8－12週で性成熟

寿命　1年半

分布　日本全土に分布するが、主に郊外に多く分布する。
西アジアが原産地。

ハツカネズミの特徴

- 水平移動が多い（畑、草地に多い）
- 水が無くても生活できる（食物の含水による）
- 警戒心が無いので殺鼠剤をよく食べる
- ネズミ捕りカゴでは捕まりにくい（小さいから）
- 粘着トラップでよく捕獲される（ゴキブリ用でも）

前２種とは生態が
大きく異なる

ネズミの食品混入では最も事例が多い

具体的な種類－２

ゴキブリ

ゴキブリの生態と特徴

項　目	内　　容
不完全変態	さなぎの期間がなく、脱皮を繰り返し成長
雑食性	幼虫・成虫ともに食性が広く何でも食べる
歩行と飛翔	積極的に飛翔せず、主に歩行して移動
夜間行動性	特有の生活リズムがあり、消灯後活動
温度・湿度	一般に高温・多湿を好む 餌より水分が生存に重要
狭い場所	背面と腹面の両方が接する狭い場所を好んで潜む 壁際や物の縁を好んで通る
集合性	腸から分泌される集合フェロモンの働き

クロゴキブリ

形態（成虫）
体長：30～40㎜
色：光沢のある黒褐色

生態
日本全国に分布
木造家屋、倉庫の湿度の高い場所
卵から成虫まで2年
卵または幼虫越冬
若令幼虫は黒く白い帯があるが、
中齢幼虫は赤褐色をしている

昆虫の異物混入事例では
最もインパクトが大きい



写真：富岡康浩

雌成虫（左）と幼虫（右）

クロゴキブリの生活史（25℃）

産卵前期間	17日
卵期間	40日
幼虫期間	240日
幼虫の齢数	9齢
成虫の寿命	200日
産卵回数	20回
産卵間隔	5～6日
1卵鞘中の卵数	22～26個

ワモンゴキブリ

形態（成虫）
体長：30～45㎜
色：赤味がかった褐色
背板に淡黄色の輪紋
屋内性ゴキブリで最大種



雌成虫（左）と幼虫（右）

写真：富岡康浩

生態
熱帯種であるが、
日本全国に採集記録
（九州、四国、本州南部）
都市ビル、地下街、公共下水道、
工場の下水内などに生息

ワモンゴキブリの生活史

産卵前期間	14～17日
卵期間	35～45日（29～30℃）
幼虫期間	210～270日（29～31℃）
幼虫の齢数	9～13齢
成虫の寿命	200～700日
産卵回数	10～84回
産卵間隔	4～10日
1卵鞘中の卵数	16個

チャバネゴキブリ

形態（成虫）
- 体長：10～15㎜
- 色：（黄）褐色
- 前胸背面に１対の細長い黒斑（幼虫にはない）

生態
- 屋内生息種
- 日本全国に分布
- ビル、飲食店、ホテルなど
- 低温に弱い（暖房・熱源）
- 飛翔能力なし



写真：富岡康浩

チャバネゴキブリの生活史（25℃）

産卵前期間	9.8日
卵期間	20～30日
幼虫期間	50～70日
幼虫の齢数	5～7齢
成虫の寿命	♂:100日　♀:180日
産卵回数	4～7回
産卵間隔	30日
1卵鞘中の卵数	20～40個

具体的な種類－３

ハエ

ハエ類の生態と特徴

項　目	内　　容
完全変態	幼虫と成虫では住む場所が異なり、蛹の期間をもつ
幼虫の生活場所	湿った場所に多く、種類によって動物の死体、生ごみ、糞等が生活場所
成虫の生活場所	飛翔により広範囲を移動することが多く、臭いに誘引され集まる
大型ハエ	イエバエ、クロバエ＊、ニクバエ類＊などが知られている：畜鶏舎が近いと危険
コバエ類	ノミバエ、ショウジョウバエ、チョウバエ等比較的小さいハエ類

＊以前は肥溜め、便所からも発生していた。**肉を扱う施設でも誘引しやすい。**

イエバエ

Musca domestica (House fly)

衛生動物として、世界でもっとも普通なハエ
発生場所は主に屋外
成虫は屋内侵入性
（好んで家屋内に入る）

成虫は1年中みられる
（初夏と秋に多数発生）



国立感染症研究所昆虫医科学部

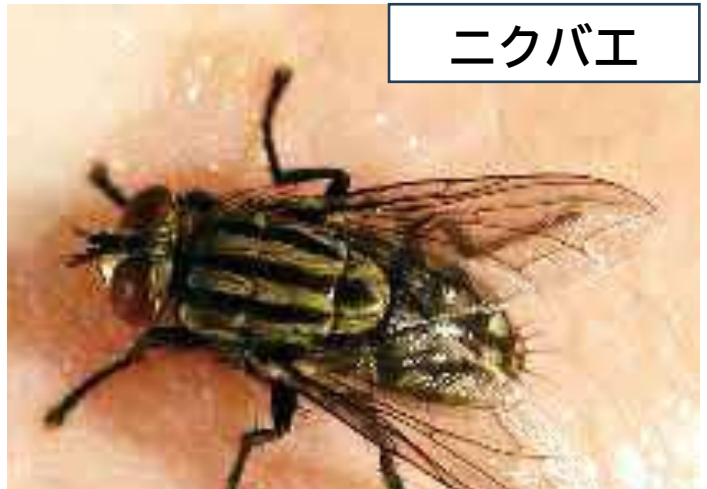
クロバエ・キンバエ・ニクバエ

クロバエ類：青黒色
キンバエ類（同じくクロバエ科）：金緑色
ニクバエ類：腹部は市松模様

大型ハエ類で主に肉類から発生、誘引
　ネズミ等の死体からも発生するため、
　天井裏で発生することもある







コバエ類

世代交代が早い



チョウバエ類



ショウジョウバエ類



ノミバエ類

写真：イカリ消毒(株)

卵から成虫までの期間は27℃で10～14日程度

＊注意事項：必ず種類の確認については専門知識をもった専門家に種類は確認をしてもらってください。

ま　と　め

防除技術を考慮したネズミ・昆虫の分類

分　類	環境条件と生態			主なネズミ・昆虫の種
屋内発生種	湿潤環境発生昆虫類			ノミバエ・ショウジョウバエなど
	乾燥環境発生昆虫類			ノシメマダラメイガ・シバンムシなど
屋外侵入種	飛翔性昆虫類	誘引要素	光	ユスリカ・ガ類など多数の種類
			臭気	大型ハエ類など
			気流	タマバエ、幼クモなど
			温度	大型ハエ類、カメムシなど
	歩行性有害生物類			ネズミ・ゴキブリなど

＊例外も多く、屋内生息のネズミ、屋内発生種（湿潤環境発生）のユスリカなどもいる

谷川（2025）食と健康

まとめ－１
飲食店における防虫防鼠対策

- 対策チームをつくる：責任者の重要性

  ➡チームは無理でも責任者を置くことは重要

- HACCPとネズミ・昆虫対策：一般的衛生対策の中のIPMの位置
- **食品取扱い施設で発生するネズミ・昆虫**
- **ネズミ・昆虫の対策**の流れ

  防除対策（事前調査➡計画➡防除➡効果判定）

- 重要な**モニタリング**
- **IPM**による対策



まとめ－２
飲食店における
防虫防鼠対策



- 飲食店内では屋内発生の虫などが必ず生息する。
  また屋外から侵入することもある。
- 生息する環境を調査し、種類を確定する。
- 種類と生態を知り、防除する対策を考える。



・生ゴミ管理
・整理整頓
・侵入防止

